

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	家庭・地域への啓発事業						掲載ページ		
							128		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	担当局	教育委員会
		3,956	千円	6,288	千円	施策名	家庭の教育力の向上	担当課	生涯学習課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価			
目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか	保護者が家庭教育上の留意点を学び、また、保護者同士で話し合うこと等により、子育てに関する悩みや不安を解消し、子どもの教育に積極的に関わることができるようにします。		活動実績	○主に中学生の保護者を対象とした家庭教育に関する講演会「家庭教育講演会」を、全市版の家庭教育学級として行い、380名の参加がありました。 ○「家庭教育講座」を市民センター9館でモデル実施を行い、幼児の保護者に対し、小学校入学前のより早い段階から保護者が家庭教育の重要性を学ぶことができる機会を設け、家庭の教育力の向上を図るとともに、学校、家庭、地域が連携して、子ども達の基本的な生活習慣、就学後の学習習慣の定着を目指しました。（H26:631人）		
活動計画	市立幼稚園、小・中・特別支援学校、私立幼稚園・保育所、直営保育所での家庭教育学級を継続して実施するほか、家庭教育リーフレット「きほんのき」の配布、北九州市子どもを育てる10か条の出前講演の際に、家庭教育リーフレット「きほんのき」を活用し啓発を行います。						
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）		前年度実績	目標	実績（達成率）	→	【活動の状況】
	家庭教育学級開設数		328 箇所	330 箇所	311 箇所 94.2 %	大変順調	活動を参考にした活動の状況をチェック
	市立幼稚園、小・中・特別支援学校の全てと、私立幼稚園・保育所での家庭教育学級開設数を増やすことにより、保護者が家庭教育について学ぶ機会を拡充します。 （最終目標と最終年度）						
	出前講演開催回数		13 回	10 回	15 回 150.0 %	順調 やや遅れ 遅れ	やや遅れ
北九州市子どもを育てる10か条の出前講演の際に、家庭教育リーフレット「きほんのき」を活用し啓発を行う。 （最終目標と最終年度）							

【Check】評価（分析）			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	家庭教育学級は平成25年度に行った家庭教育推進会議の検討結果を踏まえ、幼稚園・小・中学校の家庭教育学級開催要項の改正や主に中学生の保護者を対象に「家庭教育講演会」の開催を行いました。 幼児期の保護者に対しては、小学生になるまでに身に付けておく必要がある基本的な生活習慣等について啓発する家庭教育リーフレット「きほんのき」を配布や、未就学児の保護者を対象とした「家庭教育講座」を9箇所の市民センターで行い、より早い段階から家庭教育の大切さを啓発しました。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	家庭教育学級の実施にあたっては、市の出前講演や企業による講師派遣を活用したり、複数校で合同で開催したりするなど、効率的に実施できるよう工夫しています。また、多くの保護者の集まる機会を捉えて「家庭教育講演会」を行い、家庭教育の重要性について啓発を行いました。 幼児期の保護者への啓発については、家庭教育リーフレット「きほんのき」は、幼稚園・保育所を通じて配布することによりコストを削減しており、効果的に啓発を行うことができました。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること
家庭教育に関心のある保護者とそうでない保護者の二極化傾向がみられますが、より多くの保護者に家庭教育の重要性を啓発する必要があります。また、私立幼稚園や保育園の実施箇所が増加するよう工夫する必要があります。 平成27年度は、より多くの保護者に啓発を行えるよう、講演会の開催方法等を工夫するとともに、幼児期の保護者への啓発も継続します。

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	PTA活動との連携						掲載ページ		
							128		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	担当局	教育委員会
		947	千円	529	千円	施策名	家庭の教育力の向上	担当課	生涯学習課

## 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか 北九州市PTA協議会と連携した各種研修会の実施や意見交換などに加え、家庭教育力の向上に向け、北九州市PTA協議会と連携した取組みを検討・実施します。	活動実績	「子ども読書フェスタ」をPTA主催の「明日の子どもを育てるフェスティバル」と同時開催し、「家庭教育講演会」の開催を委託するなど連携を図りました。			
活動計画	北九州市PTA協議会と連携した各種研修会などを実施するとともに、PTAと連携した取組を行います。また、「子どもを育てる10か条」の啓発もPTAと連携して行い、家庭・地域へのさらなる普及を図ります。					
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）	→	【活動の状況】
	北九州市PTA協議会と共催実施する研修会の延べ参加者数	842 人	850 人	819 人	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	北九州市PTA協議会と共催により、小・中・特別支援学校のPTA役員及び広報委員を対象とした研修会を実施します。このため、当該指標を設定しました。 （最終目標と最終年度）28年度 850人			96.4 %		
PTAと連携した取組の実施	研修会等の会場で掲揚	研修会等の会場で掲揚	研修会等の会場で掲揚	順調 やや遅れ 遅れ	順調	
	PTAとの協働により、「北九州市子どもを育てる10か条」啓発用のぼり旗を研修会等の会場で掲揚周知を図りました。 （最終目標と最終年度）					

## 【Check】評価（分析）

分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	昨年同様、小・中・特別支援学校のPTA役員及び広報委員を対象とした研修会開催（北九州市PTA協議会と共催）しました。その他、「小学生親睦駅伝大会」の開催（北九州市PTA協議会と共催）など市PTA、各区PTA、単位PTAと連携・支援することにより、子どもの体力の向上を図るとともに、保護者の参画の機会を育むことができました。また、「子ども読書フェスタ」をPTA主催の「明日の子どもを育てるフェスティバル」と同時開催し、「家庭教育講演会」の開催を委託するなど連携を図りました。
	【経済性】 【効率性】の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	市とPTAが役割分担をしたことにより、最小限の経費で効率的に事業を実施することができました。今後も、低コストで効果的な事業実施に努めます。

## 【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること

PTAの日の設置に合わせて、小学校応援団と連携し、保護者がPTA活動に参加しやすい環境づくりを進めます。また、PTA協議会と協力することで、より多くの保護者に対する啓発（講演会等）を行います。

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	家庭内事故防止のためのPR						掲載ページ		
							128		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	担当局	子ども家庭局
		420,464	千円	422,441	千円	施策名	家庭の教育力の向上	担当課	総務企画課
		「子どもの館・子育てふれあい交流プラザ運営事業」の総額。本事業はその一部		「子どもの館・子育てふれあい交流プラザ運営事業」の総額。本事業はその一部					

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価				
目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか	0歳児を除く子どもの死亡原因のトップである不慮の事故をなくすため、「子育てふれあい交流プラザ」内に、日常生活空間を再現した「セーフキッズ」を設置し、家庭内の危険箇所や予防方法を紹介します。				活動実績	活動結果は下記のとおりです。	
活動計画	「子育てふれあい交流プラザ」の来館者に対し、家庭内の危険箇所や予防方法等を、日常生活空間で再現し、PRを行うことで、家庭内での事故防止に努めます。							
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）	→	【活動の状況】		
	「セーフキッズ」利用者数	11,582 人	—	14,815 人	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
	より多くの市民に、啓発できたかを図る活動指標として設定しました。 （最終目標と最終年度）					順調	大変順調	
				やや遅れ				
	（最終目標と最終年度）			遅れ				

【Check】評価（分析）		
分析及び課題の整理	<b>【活動の状況】を踏まえた分析</b> 活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	利用者も前年度から大幅に増加したことから大変順調としました。子どもの不慮の事故を防ぐため、日常生活空間を再現した「セーフキッズ」での啓発は、保護者に事故予防の方法を具体的に例を示して認識する機会を提供・普及することができており、家庭内の事故防止に有効です。
<b>【経済性】</b> <b>【効率性】</b> の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	「指定管理者制度」を導入し、経済的・効率的な運営を行っています。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること
日常生活空間を再現し、事故予防の啓発を行うことは、子どもの不慮の事故を防ぐことにつながることから、今後も継続して実施していきます。

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	子育てネットワークの充実						掲載ページ		
							129		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	担当局	教育委員会
		988	千円	850	千円	施策名	家庭の教育力の向上	担当課	生涯学習課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価				
目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか	保護者が子育てに対する戸惑いや不安を解決し、子育ての負担を少しでも軽くできるよう、地域の大人を一定の研修の後に子育てサポーターとして登録し、地域による子育てを支援するものです。				活動実績		子育てサポーターを新たに94名養成したほか、今後の活動の充実のため、子育てサポーターフォローアップ研修や「のびのび交流会」を行いました。サポーターリーダーの養成研修に加え、既リーダーのフォローアップ研修も行いました。
活動計画	今年度も子育てサポーター養成講座、子育てサポーターフォローアップ研修を実施します。また、子育てサポーターの増加に伴い、子育てサポーターリーダー養成研修を実施します。 なお、今年度の子育てサポーター交流会「のびのび交流会」は、全ての子育てサポーターを対象に講演会形式で実施します。							
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）	→	【活動の状況】		
	子育てサポーター登録者数	1,272 人	1,000 人	1,366 人	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
	子育てサポーター養成講座を受講してもらい、登録者の増加を目指しています。このため、子育てサポーター登録者数を指標に設定しました。 全市民センター（129館）に各8名程度の配置を目指します。 （最終目標と最終年度）子育てサポーター登録者数1,000人、平成26年度			136.6 %				
	子育てサポーター交流会の開催	1 回	1 回	1 回	順調 やや遅れ 遅れ	順調		
サポーター間の交流を深め、意見交換や情報交換を通して相互の連携・協力を図るために年1回交流会を開催します （最終目標と最終年度）	100.0 %							

【Check】評価（分析）		
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。 平成26年度は、子育てサポーターの登録者が前年度に比べて94人増加し、登録者数は目標を上回っています。また、子育てサポーター同士をつないだり関係機関との連携を図る子育てサポーターリーダーを新たに養成し、子育てサポーターリーダーは計153人となりました。「のびのび交流会」では、全ての子育てサポーター及び子育て支援に関わる方を対象に、事例発表や意見交換会を開き、今後の活動の充実につなげました。サポーターリーダーのフォローアップ研修も行いました。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。 子育てを経験された方など、豊富な経験を持つ方を子育てサポーターとして登録し、市民センター事業と連携し、ボランティアにて活動を行っています。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること
市民センターにおいて子育てサポーターが活躍できる講座を開講する等、今後、子ども家庭局と協議し、同サポーターの活用策について具体化を目指していきます。

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	子どもの読書活動の推進						掲載ページ		
							129		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	担当局	教育委員会
		4,854	千円	304,227	千円	施策名	家庭の教育力の向上	担当課	指導第一課 生涯学習課 中央図書館

## 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を（誰を）どのような状態にしたいのか 本市には、学校外で読書をまったくしない児童生徒が全国と比べて多い状況です。このため、すべての市立小・中学校において、「10分間読書」を推進するとともに、家庭の教育力向上に向けた方策のひとつとして、「子ども読書活動の推進」を捉え、読み聞かせや読書の重要性についての理解の促進を図るとともに、子どもが自主的に読書を行うようになるための機会を提供します。	活動実績 活動結果は下記のとおりです。
活動計画	本事業は、「北九州市子どもの未来をひらく教育プラン」に掲げた「読書好きな子ども日本一」を実現するために必要なものです。事業を実施しつつ、改善に向けた検討を進めます。各学校の整備率に応じ、追加で図書購入費を配分したことにより、整備率100%を超えている学校が小学校では78校から90校へ、中学校では28校から36校へ増加するなど、一定の成果が得られました。追加配分にあわせて、学校図書整備計画調査を実施しましたが、このことにより、計画的な図書の整備（購入、廃棄など）につながったものと思われる。	

活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）	→	【活動の状況】
		学校図書館図書標準達成校の割合 「学校図書館図書標準」100%の達成を目指します。このため、学校図書館図書標準達成校の割合として設定しました。 （最終目標と最終年度）27年度 100%	小学校90校 (68.7%) 中学校36校 (58.1%)	27年度までに 100%の達成	小学校110校 (84.0%) 中学校50校 (80.7%)	大変順調
	「北九州市子ども読書プラン」実施事業27項目 「北九州市子ども読書プラン」に掲載されている家庭・学校・地域における施策・事業を実施します。このため、当該指標を設定しました。 （最終目標と最終年度）	27項目	27項目	27 項目 100.0 %	順調 やや遅れ 遅れ	順調

## 【Check】評価（分析）

分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析 活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	各学校の整備率に応じ、追加で図書購入費を配分したことにより、整備率100%を超えている学校が小学校では90校から110校へ、中学校では36校から50校へ増加するなど、一定の成果が得られました。追加配分にあわせて、学校図書整備計画調査を実施しましたが、このことにより、計画的な図書の整備（購入、廃棄など）につながったものと思われる。 読書活動推進のモデル中学校区を35校区から全中学校区に拡大し、そのうちの27中学校区に学校図書館嘱託職員を配置して、学校図書館の整備やレファレンス業務にあたるようにしました。また、各学校でブックヘルパーを募集し、学校図書館嘱託職員の業務に準じた活動にあたるようにしたこと、学校図書館における読書環境の充実を図ることができました。こうしたことにより、多くの学校で学校図書館の常時開館が実現し、利用人数と図書貸出冊数がともに増加しています。 「ノーテレビ・ノーゲーム・読書の日」啓発用しおりを、3歳児の家庭に配布し啓発を行いました。
	【経済性】 【効率性】 の分析 「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。 読書は、継続して定着させる必要があり、継続して本事業を実施します。実施にあたっては、読み聞かせや学校図書館の支援などのボランティアの募集、養成を行うなどして、最小限の経費で効率的な事業実施に努めます。	

## 【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること

平成27年度は、「北九州市子ども読書プラン」の期間の最終年となることから、次期計画の策定に向けて各事業の検討を進めます。

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	ブックスタート(すべての赤ちゃんに本のよろこびを)事業						掲載ページ		
							129		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	担当局	教育委員会
		9,568	千円	12,289	千円	施策名	家庭の教育力の向上	担当課	中央図書館

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価				
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	親子のふれあいの大切さを保護者に直接伝えながら、そのきっかけづくりのために赤ちゃんのいる家庭に絵本を贈り、絵本の読み聞かせを通じて、親子の絆を深めることを目指しています。				活動実績	活動結果は下記のとおりです。	
活動計画	対象となる家庭へ事業を紹介する案内状兼引換券を郵送し、図書館17館、保育所(園)162所(園)、親子ふれあいルーム各区役所等7箇所です受け取りができるようにしている。							
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)		前年度実績	目標	実績(達成率)	→	【活動の状況】	
	絵本パック配布率		60 %	70 %	67.1 %	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	絵本パック配布対象家庭に送付した引換券の数に対して、何パーセントの家庭が実際に受け取ったかにより、事業の成果が測られます。このため、当該指標を設定しました。 (最終目標と最終年度) H26年度 70%				95.9 %			
	配布場所の拡大		3 箇所	3 箇所	3 箇所	順調 やや遅れ	順調	
配布場所を拡大することで、受け取りやすい環境が整備されることから、当該指標を設定しました。配布を開始していなかった1区役所の親子ふれあいルームでの配布を、平成23年度から開始、保育所2箇所です新規に開始。 (最終目標と最終年度) H26年度 70%		100.0 %			遅れ			

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	子育て支援施設等での配布箇所が3箇所増加した。また、新戸畑図書館がリニューアル開館した。配布対象者8,779人に対し、5,887人に配布し、配布率は67.1%と前年比7.1%増加した。前年度、配布率が減少したため、市民向けのアンケート調査を実施した。以上、計画通りの活動を行った。また、配布率も向上していることから、活動は有効であったと分析している。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	現状では、絵本パックを受け取れる場所を増やすことが配布率向上につながることから、関係部局との協議を進め、配布場所の検討等を行います。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること	
市立幼稚園8園で配布します。 また、他に配布率の向上につながる方策がないか検討します。	

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	「子どもまつり」の充実						掲載ページ		
							129		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	担当局	子ども家庭局
		2,450	千円	2,450	千円	施策名	家庭の教育力の向上	担当課	青少年課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価			
目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか	毎年、「子どもの日」にちなんで開催している「子どもまつり」の中で、親子のふれあい等を高めることができる催しを実施することにより、親子を中心とした家庭におけるコミュニケーションの促進を図ります。		活動実績	活動結果は下記のとおりです。		
活動計画	「子どもまつり」の中で、親子が一緒に楽しみながら取り組むことができる事業などを実施するとともに、親子関係づくりの啓発活動等を行うことで、親子のふれあいを高めるきっかけづくりを図ります。						
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）		前年度実績	目標	実績（達成率）	→	【活動の状況】
	「親子のふれあい」の推進		-	親子のふれあいの推進	-	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	親子のふれあいを高める催しを実施することにより、親子を中心とした家庭におけるコミュニケーションの促進を図ることが必要と考え、活動指標としました。 （最終目標と最終年度）						
来場者数		79,624 人	-	66,460 人	順調	順調	
親子のふれあいを高めるきっかけづくりが図れているか確認するため、各区で開催している子どもまつり会場への来場者数を指標として掲げました。 （最終目標と最終年度）					やや遅れ		
					遅れ		

【Check】評価（分析）			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	天候に恵まれず来場者数は減少しましたが、滞りなく「子どもまつり」を実施できたことから、活動状況を順調としました。子どもまつりの中で行う各イベントブースに、親子のふれあいの促進を意識した内容を盛り込むことで、親子で一緒に楽しみながら体験活動や運動等を行うことができ、親子のふれあいの促進が図れます。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	子どもまつりには多くの親子が来場するため、この中で親子が一緒に取り組むことができる内容の各種イベントを実施することで、効果的に親子のふれあいの促進を図ることができます。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること
各イベントブースで行う取り組みの内容を充実させ、親子のふれあいを強く推進していきます。

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	育児教室等の充実						掲載ページ	
							130	
コスト	事業費	平成26年度執行額	平成27年度予算額	政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	担当局	子ども家庭局	
		23,460 「すくすく子育て支援事業」の総額 本事業はその一部	千円	26,623 「すくすく子育て支援事業」の総額 本事業はその一部	千円	施策名	家庭の教育力の向上	担当課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか	乳幼児の子育てや基本的な生活習慣等に関する知識の普及を図るため、土日開催や託児を設けるなど、開催方法等を検討し、参加しやすい教室を実施します。		活動実績	活動結果は下記のとおりです。	
活動計画	母子の健康確保のため、乳幼児の保護者を対象とした育児教室を各区で開催します。子どもを持つ親同士の交流や育児に必要な知識を提供します。					
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）	→	【活動の状況】
	育児教室開催数 より多くの乳幼児の保護者に対して、基本的な生活習慣や事故予防など、育児に必要な知識の普及につながることから、活動指標としました。 （最終目標と最終年度）	605 回	継続的な開催	619 回	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	育児教室参加者数 より多くの乳幼児の保護者に対して、基本的な生活習慣や事故予防等、育児に必要な知識の提供につながることから、活動指標としました。 （最終目標と最終年度）	8,813 人	増加	8,409 人	順調 やや遅れ 遅れ	順調

【Check】評価（分析）			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	定期的に各区で開催することになっている育児教室は予定どおり開催できており、出生数が減少していることや、就労する母親の増加等の要因により、前年度よりも参加者数が減少しましたが、子どもを持つ保護者同士が交流し、情報交換等は図られたと考えるため、順調と判断しました。基本的な生活習慣を育成するためには、乳幼児期は大切な時期であることから、乳幼児を持つ保護者に対して、必要な情報を提供できていると考えます。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	他の社会資源状況を把握したり、関係機関と連携し参加しやすい教室内容を工夫することで、より効果的に開催することが必要です。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること
<p>基本的な生活習慣を育成するためには、乳幼児期は大切な時期であり、乳幼児を持つ保護者に対して、知識の普及を図ることは重要です。また、子どもを持つ保護者同士が交流し情報を交換することで、育児に関する不安の軽減が図られています。</p> <p>今後も乳幼児の保護者の実態を反映した育児教室を実施していきます。</p>



# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	北九州市子どもを育てる10か条の普及促進活動						掲載ページ		
							130		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	担当局	教育委員会
		712	千円	356	千円	施策名	家庭教育の教育力の向上	担当課	生涯学習課

## 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか 本市の子育て・親育ちのためのルールとして、平成15年度に策定した「北九州市子どもを育てる10か条」を市民に広く実践してもらい、家庭や地域の教育力の向上を図るため、様々な方法で普及促進を図ります。	活動実績 活動結果は下記のとおりです。				
活動計画	策定から9年が経過する中で、様々な機会をとらえ、10か条の唱和などを行ってきたところですが、家庭や地域の教育力の向上を図るため、継続して実施してもらうよう、のぼり旗やチラシの作成を委託し、引続き粘り強く普及、促進を図ります。					
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）	→	【活動の状況】
	出前講演実施回数 「北九州市子どもを育てる10か条」の普及を目指し、出前講演をより多く開催します。このため、出前講演実施回数を指標として設定しました。 （最終目標と最終年度）	13 回	10 回	15 回 150.0 %	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	チラシ・ポスター・のぼり旗の配布による普及 「北九州市子どもを育てる10か条」の普及を目指し、チラシやのぼり旗を各小中学校や市民センターなどに配布し、普及を目指します。 （最終目標と最終年度）	実施	実施	実施	順調 やや遅れ 遅れ	順調

## 【Check】評価（分析）

分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析 活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	出前講演は、市内の幼稚園、保育園、小・中学校の家庭教育学級において幅広い世代を対象に実施しました。 また、昨年度に引続き、小学校校長経験者を講師として実施し、アンケートも良好な結果を得られました。 さらに、学校や地域から、のぼり旗やチラシの追加配布の希望の声も年間を通して多く、家庭や地域に徐々に浸透・定着していると感じます。 ホット学びたい市民講座支援事業に、『「子どもを育てる10か条」普及促進』の学習テーマを追加し、地域において更なる普及、啓発を図りました。
	【経済性】 【効率性】の分析 「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	市立の幼稚園や学校及び市民センター等に対し、チラシ・ポスターの配布を依頼したり、各種会議・講演会・行事などでの唱和、市営バスでの車内放送広告等を実施したりすることにより、低コストで効果的に広く市民に周知、啓発が出来ていると考えます。

## 【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること

地域において更なる普及、啓発を図っていきます。
-------------------------

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	食を通じた乳幼児等の健康づくり						掲載ページ		
							130		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	担当局	子ども家庭局
		1,129	千円	1,164	千円	施策名	家庭の教育力の向上	担当課	子育て支援課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価				
目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか	妊産婦や乳幼児の食事や栄養について、知識の普及と不安や悩みの軽減を図るため、実習形式で学べる教室の開催及び相談を行います。また、教室に参加できない対象者については、リーフレットの配布等で啓発を行います。				活動実績	活動結果は下記のとおりです。	
活動計画		妊婦教室等については、対象者のニーズやコスト面を考慮した実施会場の設定や運営の委託化を行います。また、リーフレットの配布を行い、より多くの対象者に啓発していきます。						
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）	→	【活動の状況】		
	妊婦教室等開催回数	15 回	30 回	16 回	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
	食について学ぶ機会があった人のほうが、野菜の摂取量が多いことやバランスの取れた食生活が実践できているという調査結果から、より参加しやすい形に見直した教室の開催回数を活動指標としました。 （最終目標と最終年度） 30回（平成26年度）			53.3 %				
（最終目標と最終年度）				順調				

【Check】評価（分析）			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	対象者のニーズや事業の効率化を考慮し、教室を開催しました。また、リーフレットの配布を行い、より多くの対象者に啓発することができたため、順調と判断しました。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	教室の運営委託を行い、準備やスタッフの手配など、効率的に実施しました。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること
よりニーズを考慮した教室内容、および啓発方法を検討していきます。

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	親子ですすめる食育教室						掲載ページ		
							130		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	担当局	子ども家庭局
		944	千円	966	千円	施策名	家庭の教育力の向上	担当課	子育て支援課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価			
目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか	乳幼児期からの正しい食事の仕方や望ましい食習慣の定着のために、幼稚園や保育所等において、入所児童の保護者を対象に乳幼児期の食育について、栄養士の講話や調理実演などを行います。				活動実績	活動結果は下記のとおりです
活動計画	40回程度講座を実施し、より多くの対象者に食育を推進していきます。						
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）	→	【活動の状況】	
	「親子ですすめる食育教室」の開催回数	40 回	40 回	40 回	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	幼稚園、保育所等において教室を開催することにより、より多くの対象者に食育の推進ができるため、活動指標としました。 （最終目標と最終年度） 40回（現状維持）（平成26年度）			100.0 %			
	（最終目標と最終年度）					順調	

【Check】評価（分析）			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	年長児のほとんどが幼稚園、または保育所に通っており、保護者にも参加しやすい場所での開催は、多くの参加者を得られ、食育の推進するに有効であり、目標どおり開催できたことから順調としました。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	従事者にボランティアを加えており、コストの面では抑えられています。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること
今後とも、望ましい食習慣の定着のために、幼稚園、保育所等において教室を実施することで、食育を推進します。

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	「食育推進ネットワーク」の構築						掲載ページ		
							130		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	担当局	保健福祉局
		85	千円	2,240 （「きたきゆうしゅう食育ネット」事業の総額。本事業はその一部）	千円	施策名	家庭の教育力の向上	担当課	健康推進課

## 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか 食育関係団体（者）とのネットワークを構築し、食育に関する情報の共有化を図るとともに、相互の連携・協力による食育を推進します。	活動実績	活動結果は下記のとおりです。			
活動計画	「北九州市食育推進ネットワーク」登録会員を対象に、情報交換会を定期的（年6回程度）に開催し、食育関係者・関係団体等の相互の情報交換・交流を行い、それぞれの団体等の自主的な活動や関係団体相互の連携・協力による食育活動を推進します。また、「食育キャンペーン」を実施し、行政だけでなく官民連携・協力のもと、本市における食育の一層の推進を図ります。					
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）	→	【活動の状況】
	食育に関心を持っている人の割合 食育に携わる団体・個人のネットワークづくりが進み、より効果的な活動が行われることで、食育の認知度が上がり、食育に関心を持った市民が増加することが期待できることから、活動指標として掲げました。（なお、目標値は第二次北九州市食育推進計画の指標の中から設定。） （最終目標と最終年度）90%以上（平成30年度）	75.3% （24年度）	90%以上	29年度調査予定		活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	「北九州市食育推進計画」に基づく食育の推進 本市における食育を総合的かつ計画的に推進していくことを目的に策定した「北九州市食育推進計画」に基づき、食育を効果的に推進していくため「食育推進ネットワーク情報交換会」を開催するとともに、食育に関する普及・啓発を行います。 （最終目標と最終年度）	情報交換会を4回開催	情報交換会を6回開催	情報交換会を3回開催	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

## 【Check】評価（分析）

分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。 情報交換会は、目標に達しなかったものの、おおむね昨年度どおり実施することができました。また、食育キャンペーン（集中取組期間：7月・8月）では、食育の様々な課題の中から、テーマを「食卓に野菜プラスで健康生活」と設定し、取組みの方向性を統一することで、各種団体と連携・協力した活動を実施することができたことから、順調としました。 今後も情報交換会等を通じて、会員相互の関係づくりを図り、より効果的な活動につなげていきたいと考えます。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。 情報交換会の開催回数を減らし、その分食育関連の情報提供を7回行うなど、情報提供の充実を図ることで事務の簡略化や内容の見直しを行い、より効率的な事務運営となるよう努めています。今後も、食育に取り組む団体等とのより一層の協力・連携に努め、市民の自主的・自発的な食育活動を促していきます。

## 【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること

「第二次北九州市食育推進計画」（平成26年度～平成30年度）の目標達成に向け、「食育キャンペーン」の実施を始め、関係団体等と協力・連携した活動の充実に努めます。  
また、「北九州市食育推進ネットワーク」登録会員の増加を目指すとともに、情報交換会を始めとした交流・情報交換の場の提供により団体間の情報共有や関係づくりを支援し、相互連携・協力による活動の活性化を目指します。